

■ 聖路加看護学会ニュースレター

第17号 平成17年2月10日 2005.2.10 No.17

過去のニュースレター

■ 目次

第10回聖路加看護学会学術大会のご挨拶

第10回学術大会会長 小澤道子（聖路加看護大学）

第10回聖路加看護学会学術大会ご案内(第2報)

- プログラム
- 演題締切
- 参加費
- 問合せ先

電子カルテの光と影—IT時代における看護の可能性

- 大学病院における看護管理過程から
鶴田恵子(前 東京医科歯科大学 医学部付属病院 看護部長, 現 日本赤十字看護大学看護管理学)
- 研究と実践のリンクによって実現するTotal Quality Management
水流聡子(東京大学大学院工学系研究科)
- 電子カルテで看護が変わったこと、変えたこと
渡邊千登世(聖路加国際病院看護部)
- 質疑応答のまとめ

平成17年度 学術交流委員会開催パネルディスカッション

LOBBY:「生涯発達」

お知らせ

- 学術交流委員会より
- ニュースレター委員会より
- 学会誌編集委員会より
- 会計より
- 庶務より

編集後記

■ 内容

第10回聖路加看護学会学術大会のご挨拶

第10回学術大会会長 小澤道子（聖路加看護大学）

第10回目を迎えた聖路加看護学会学術大会を開催させて頂くにあたりご挨拶を申し上げます。

1996年9月に多くの関係者の期待を集め、「建学の精神の継承」と「実践を重視した看護学の体系化」、そして「会員相互の学術的交流と研鑽の場」を目指して第1回大会が開催され、今大会は10年目というひとつの節目ともいえます。

これまで各回の大会長の方々は、学会の目指すものの具現化に努力と工夫をされ、学会の歩みを確かなものとして創り、大会の良さとして自由な雰囲気の中で、学問的刺激を受けあい、「よしがんぼろう」という気持ちの良いエネルギーに満ちた大会を築いて下さったことに心から敬意と感謝を申し上げます。

10年を一区切りとする世の常に習いますと、過去と現在と未来という時間軸が浮かびます。その時間は、直線上の時間であれ、階段状の時間であれ、螺旋状の時間であれ流れていきます。そして、学会という学問の構築を重視する場での時間の流れには、方向性を持つことや質的な変化を大切にしたいと思います。そこで、10回目の大会メインテーマは、時間の流れと、方向性を持った質的な変化という発達の概念に準拠して「生涯発達と看護」といたしました。言い換えれば、10年目の学術大会は、これまでの過去を振り返り、今どこにいて、これからどのように進みたいかを考える「時」と「場」でありたいと願います。

これからの質的發展を考えていくヒントとして、企画委員会で話題になったことを紹介します。「大会が魅力ある研究発表や活動の場になるにはどうしたらよいか?」「本学会の価値と、重要としてきたものを探りたい」「本学会の“固有性・独自性”とは何であろうか?」「大会は、幅広い内容で参加しやすいが、研究発表は専門領域でという声もある。多様な研究発表のバランスをどう推し進めていけばよいのだろうか?」「学生・初心者・中堅者・エキスパートそして長老者、また教育・研究・実践・行政など多様な会員のニーズに応じる方策を考えていきたい」「学会活動の社会(看護界・市民)への貢献をすすめていきたい」など様々でした。

大会のプログラムは、メインテーマ「生涯発達と看護」をうけて、日野原重明先生から聖路加看護学会への期待と目指すものへのご講演をいただき、恒例のシンポジウムは、「生涯にわたる看護職業人の発達」として、参加者の期待に沿うようによく考えて準備を進めています。会長講演は生涯発達を貫く連続性に関する話題提供として「人の楽しみ経験」を予定しています。また、次の二つは、特に心と手をかけて努力をしています。一つは、会員からの研究発表が盛んになることです。メインテーマに関するものや広く看護全般に関する研究、そして専門領域に特化した研究など幅広く歓迎をします。もう一つは、次の世代である学部生や院生、そして若い世代の方の大会出席へのおすすめです。演題申し込みの方法や広報活動も工夫しています。詳細は、HP (<http://slnr.umin.jp>) やチラシをご覧ください。なお、広報活動で最も確実なものは、直接的な口コミであるとも聞きます。会員の周辺の方々へよろしく広報のご協力をお願いします。

多くの会員とその関係者の皆様にご参加いただき、意欲的な発表と活発な討論が展開されることを企画委員一同心から願っています。

↑ TOP

第10回聖路加看護学会学術大会ご案内(第2報)

メインテーマ:「生涯発達と看護」

日 時:2005年9月24日(土)9:00-17:15

会 場:聖路加看護大学

プログラム

会長講演

生涯発達と「たのしみ経験」

特別講演

聖路加看護学会への期待(仮) 日野原重明先生

シンポジウム:生涯にわたる看護職業人の発達

看護職業人のスタート地点にいる学部生として
江澤 綾氏(聖路加看護大学大学生)

ナースマネージャーと博士生として
高井今日子氏(聖路加看護大学博士課程・聖路加国際病院)

CNSとして
深沢祐子氏(松原病院)

教育する立場として
渡部尚子氏(埼玉県立大学副学長)

一般口演

(口演・示説) 事例検討

演題締切

2005年5月20日(必着)

「第10回聖路加看護学会学術大会演題申し込み書」と抄録原稿(A4サイズ、1600字程度)を同時に、大会事務局まで郵送し

て下さい。※詳細は、同封のご案内をご覧ください。

参加費

学会員	3,500円(当日参加 4,000円)
学会員(大学院生)	2,500円(当日参加 3,000円)
非学会員	4,500円(当日参加 5,000円)
学生等(大学院生以外)	1,000円(j事前・当日共 1,000円)

郵便振り込み先

口座番号 00180-0-584782

加入者名 第10回聖路加看護学会学術大会

問合せ先

大会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
 聖路加看護大学 基礎看護学内
 第10回聖路加看護学会学術大会事務局

TEL:03-3543-6391(代表) FAX:03-5550-2253 e-mail:slnr10@slcn.ac.jp

↑TOP

電子カルテの光と影—IT時代における看護の可能性

第8回聖路加看護学会学術交流会は、平成16年6月5日(土)に聖路加看護大学301教室で、鶴田恵子氏(日本赤十字看護大学看護管理学)、水流聡子氏(東京大学大学院工学系研究科)、渡邊千登世氏(聖路加国際病院看護部)の3人をパネリストとしてお迎えして、「電子カルテの光と影—IT時代における看護の可能性」というテーマのパネルディスカッションを開催いたしました。ここに各パネリストのお話の概要とその後の質疑応答をまとめたものをご紹介します。

大学病院における看護管理過程から

鶴田恵子(前 東京医科歯科大学 医学部付属病院 看護部長、
 現 日本赤十字看護大学看護管理学)

「用語の説明」「背景の理解」「看護管理過程」「実感した電子カルテの光と影」「看護におけるITの可能性」を論点に発言した。

1. 用語の説明

①診療情報:医療の提供の必要性を判断し、診療等を通じて得た患者の健康状態や評価及び医療提供の経過に関する情報、②診療記録:診療情報が患者ごとに記録されたもの、③電子カルテ:診療情報を直接電子媒体に記録したものの、④IT(Information Technology):情報通信技術、コンピューターとネットワーク(特にインターネット)に関連する技術

2. 背景の理解

(1973)問題志向型診療記録(POS)の提案、(1998)診療情報の提供・開示に向けた電子カルテの活用について国立大学病院長会議で提案、(1999)「診療録等の電子媒体による保存」厚生省通知、(1999)電子カルテを目標に、統一カルテ採用を病院運営会議で決定、(2000)情報通信技術(IT)戦略本部、(2002)大学法人化と大学病院マネジメント改革が提案、(2003)特定機能病院に医療機関別包括評価(DPC)導入、(2004)国立大学法人、(2006)電子カルテ普及率6割を政府達成目標

3. 看護管理過程

(1999)着任時のアセスメント;<外部環境>国立大学運営改革、医療制度改革(大病院に焦点)、特定機能病院で医療事故報道、診療情報開示の要請、<内部環境>病院再整備三期工事(最終段階)、大学院大学発足で診療科再編、看護体制2.5:1看護 <方向性>良質な医療サービスを効率的に提供するために、看護業務整理の方向性としてIT化と無資格者導入を判断した。

(2001)包括評価導入時のアセスメント;①諸外国で先行する医療制度改革としてカナダ(総枠予算制)米国(診断分類)は看護体制を縮小させ、医療の質を確保できなくなる状況の実態を踏まえて、診療報酬および病院運営において看護が適切に評価されるためには、看護消費に関する客観情報を蓄積する必要がある。②在院日数の短縮や多様な診療内容に対応できる看護師の適正配置をタイムリーに行えるシステムを開発するために、看護業務量をリアルタイムで測定する必要がある。<方向性>包括評価に対応できる看護体制を確立するために、電子化された看護記録から看護業務量を測定して、看護師の適正配置を行うシステムを開発する。

電子カルテ導入プロセス

(1999)全看護単位で看護師の記録内容を分析し、看護記録マニュアル作成、(2000)全病棟カーデックス廃止(7月)、統一カルテ運用開始(11月)、(2001)医療情報担当看護婦長兼務発令、(2002)医療支援と看護支援システムの統合(5月)、電

子カルテ運用開始(12月末)、(2003)ベッドサイド端末入力開始(7月)、注射実施(7月)、バイタルサイン(9月)

4. 実感した電子カルテの光と影

①看護師は熱心に取り組んだ。②実施後に診療を担当する医師の不満が爆発した。③システムの不具合にイライラする④電子カルテに合わせた看護業務整理ができた。⑤業務を変えずに電子カルテを使うことはできた。⑥看護管理者が把握できる情報量は爆発的に増加。⑦看護管理の理念に基づいた情報管理のあり方に関して現実との乖離

5. 看護におけるITの可能性

①ITは道具であるが、情報はモンスターとなる。②業務実績および能力評価の客観資料となる。③看護師のデジタル的な発想を醸成させる。④看護専門職機能を醸成させる刺激となる。⑤看護組織が知識創造的組織に発展する

↑ TOP

研究と実践のリンクによって実現するTotal Quality Management

水流聡子(東京大学大学院工学系研究科)

医療は、安全性・効果・効率・尊厳維持・検査および治療に伴う生体負荷の軽減・健康障害と治療に伴う心身疲労への癒し・多様な意思決定への支援など、非常に複雑なニーズを有し、加えて、個々の患者に適応したアレンジメントを要求されている。複雑で患者適応型の医療サービスの質保証には、研究と実践のリンクによるTotal Quality Managementが必要である。またそのようなTQM systemの実現には、医療の「実施」を行っているベッドサイドという最前線での、患者状態と提供された医療サービスに関する生データと、それらの関係性・連鎖といった情報が必要である。

一方、病棟では入院日数の短縮によって急性期の患者がその大部分を占めるようになり、医療者の負荷は高まっている。超多忙な状況下で、前述のような医療ニーズを満たすサービス提供を実現するには、患者と医療者の間で繰り返される「response-do」を支援する電子的TQM-systemが必要である。それは最前線の医療をサポートする電子カルテシステムの重要なひとつの機能といえる。

これまでの病院情報システム(HIS)は、支払いシステムにリンクするオーダー情報を基軸として設計されてきた感が強い。診療報酬請求を効率的に実施するシステムは重要である。しかしながら、それらの請求がいかなる最前線の医療の中で発生しているかを示すデータを整備しなければ、医療の質保証はできない。臨床実践者が入力する情報が、最終的に臨床実践にフィードバックされなければ、不満が募るだけである。

そこで、患者と医療者の間で、「response-do」を繰り返している実践を総括的・階層的に記述し、効率的な操作でそれらを実現する「電子経過表」を研究と実践の強力なリンクで研究開発した。また「response-do」を記述するために看護領域が責任をもって準備すべき、マスタファイルを同様なリンクで研究開発した。responseを記述するための「看護観察マスタ」と、doを記述するための「看護行為マスタ」である。「看護行為マスタ」は、基本看護実践と高度専門看護実践に別れ、前者は259の行為(看護サービス名称)が準備された。後者は高度専門な看護実践の中で展開しているアルゴリズムに注目し、それらの可視化とソフトウェア開発を試みている。今回の報告では、患者状態に由来する医療事故現象として「転倒・転落・自己抜去・離院・自傷」に注目した「システマティック安全ケア」について研究の途中経過を報告した。

* 本研究は、平成15-16年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「保健・医療・福祉領域の電子カルテに必要な看護用語の標準化と事例整備に関する研究(主任研究者 水流聡子)」により実施された。また先行する学術研究、「文部科学省研究助成 平成14-15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)『電子カルテ間のデータ交換を実現する看護実践分類および用語のモデル開発(14370803)』研究代表者:水流聡子」によって、アカデミックフレームが検討された。

↑ TOP

電子カルテで看護が変わったこと、変えたこと

渡邊千登世(聖路加国際病院看護部)

当院の電子チャートの変遷は1992年のオーダーリングシステムに始まり、段階的に発展してきた。2003年には病院統合情報システムとして、電子カルテが導入され、看護業務や看護記録にも大きな変化をもたらした。

電子カルテ導入により看護が大きく変わったことの一つとして、実践と記録の流れの変化が挙げられる。「電子カルテ(チャート)」システムの導入に際し、業務の効率化および、それまで多くの時間を費やしていた記録時間の削減に主眼をおき、実践および記録の流れの再構築をはかる必要があった。従来の看護記録は実践との時間的な解離があり、業務終了後に振り返り記載することが多く、また、記録用紙は多種類におよび、同じ内容を転記しなくてはならなかった。このような現状を是正するためのシステムは、看護のケアオーダーを効率よく出すことができ、実施入力と同時に経過記録が作成されるシステムであると考えられた。また、看護師によるケアのオーダーや医師から出されたオーダーの実施入力を行っていくことによって、単に実施した時間を残すだけではなく、実施した結果も同時に記載し、その記述が他職種と共有できることが理想であると考えられた。このような変化によって、それまでは見えにくかった看護業務の内容が明らかになり、情報を共有することで他職種の人達に看護業務が伝達できるようになったことも大きな変化であった。

今後、電子カルテで看護を変えていくためには、まず、コンピューターの利点を最大限に生かし、蓄積したデータを看護管理に活用する方法を検討することが急務である。看護の質や量の測定、人員配置などに必要なデータを適時、分析できるようなシステム作りを検討したいと考えている。さらに、将来の電子カルテへの期待としては教育のツールとしての発展や他施設との医療連携に看護が関与するためのツールとして利用できれば理想的であると考えている。

↑ TOP

質疑応答のまとめ

●電子カルテの定義および範囲について

Electric health recordすなわち電子媒体を用いた患者の個人情報にさす。オーダーリングシステムを導入し、患者に関する情報を電子情報として格納した時点で、電子カルテと呼ぶことができる。部分的に紙媒体で保有していたとしても同様である。従来、看護記録は実施記録をしないと実施したとはみなされない。すべてを電子化する必要はないが、実施記録まで導入するか否かは重大な分岐点である。

●電子カルテの光

電子カルテの導入により、ケアのセット化、ケアの実施状況、看護量が入出力できるようになった。あとはデータをどう使いこなすかが課題である。めざすところはTotal Quality Managementである。

情報(用語)の標準化となり、スタンダードケアを生み、プログラムドケアになるであろう。もともと看護記録は永遠の課題である割には、これまであいまいであった。それらが表れることは、すなわち「光」となり、専門家による看護をアピールすることができるのである。

この他、会場から個人情報の管理(保護)、e-learningの具体的なすすめ方、患者に情報提供する際の配慮について質疑が出された。また在宅看護の場で情報共有、端末利用の記録について企業と共同開発した実績が紹介され、活発な討議が展開された。

(文責:聖路加看護学会学術交流委員会)

↑ TOP

平成17年度 学術交流委員会開催 パネルディスカッション

テーマ:「発展していく専門看護師の役割」

日 時:2005年5月28日(土)13:00-15:30

場 所:聖路加看護大学

パネリスト:濱口恵子氏(癌研病院)
馬庭恭子(YMCA訪問看護ステーション・ピース)

参加費:無料(事前申し込み不要)直接、会場にお越しください。

主旨:

聖路加看護大学を修了した第一号の専門看護師(CNS)が誕生してから9年がたち、少しずつその活動の場が広がるようになりました。そこで、今回は、専門看護師が直面している課題はなにか、また今後の専門看護師の役割の展望について、皆様と共に考えたいと企画しました。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(学術交流委員会 太田喜久子(委員長)、秋山正子、鶴田恵子、
中村めぐみ、野崎真奈美、横山美樹)

↑ TOP

LOBBY:「生涯発達」

第10回学術大会会長 小澤道子

第10回学術大会のメインテーマは、「生涯発達と看護」です。生涯発達という言葉は、1970年代から学問的に使われ始めました。古くから人は、誕生から死に至る生涯全体を見通せば、より主体的により柔軟に生きられると願っていました。ここでは、生涯全体を見通した民間伝承のグリムと「論語」の中での孔子を紹介し、両者の生涯発達モデルを図化しました。皆様は描く人生は、グリムの下降モデル(a)、孔子の上昇モデル(b)、それとも平行モデル(c)でしょうか。また、生涯発達の研究は、人間の持つ多様な側面の時間的・質的な変化を明らかにするため、いくつもの縦断的研究の集積が求められています。子どもから高齢者までの縦断的研究を少し紹介します。

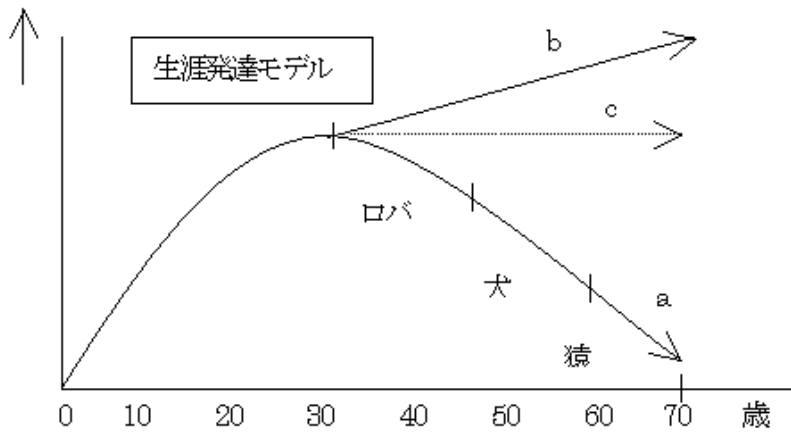
★生涯発達モデル

グリム“じゅみょう”

「神様は、ロバに対して30歳の寿命を与えようとされるが、ロバは荷役に苦しむ生涯の長いのを嫌に思い、もっと短くしてくれと言う。神様は同情して18年分短くしてやろうと約束される。ついで犬も猿も30歳は長すぎるといやがるので、神様はそれぞれ12歳と10歳分だけ短くされる。そこへ人間がやってきて、30歳の命の短いのを残念がるので、神様はロバ、犬、猿からの年齢分の18、12、10歳の合計を人間に与えられ、人間は70歳の寿命をもらうことになった。人間はそれでも不満そうであった。その結果として、人間は30年の生涯を楽しんだ後、後の18年は荷役に苦しむロバの人生を送り、続く12年は噛みつくには歯も抜けてしまった老犬の生活をし、後の10年は子供じみた猿の年を送ることになった。」

孔子 「吾れ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。

六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従いて矩を躓えず。」



縦断的研究

- Normative descriptive Study (Gesell,A.L: 発達診断 日本小児医事出版1958)
1930年代に米国のゲゼルは、平均的な子どもがどのような行動をいつ獲得していくかを乳児から青年期まで行動観察を追跡し行動発達の基準を確立。
- New York longitudinal Study(Thomas,A & Chess,C:子どもの気質と心理的発達 1980)
乳児期からもつ個人の気質の特徴が親子関係の形成や維持などの環境とどのように適合していくかを成人まで追跡した研究。
- The PRAGUE Study(Mat?jc?k,Z :Follow-up study of children born from unwanted pregnancies 1980)
望まれない妊娠で出生した子ども220人の身体・情緒・知能・人間関係などの発達を生後9年間と思春期までマッチングコントロール群と共に追跡した貴重な研究。
- 初期環境の貧困に基づく発達遅滞児の長期追跡研究(藤永 保等:人間発達と初期環境 有斐閣 1987)
遺棄され救出時推定6歳と5歳の姉弟を学際的救出プロジェクトチームが身体・言語・認知・社会情動面の発達を成人まで追跡した事例。
- Oakland Growth Study (Glen,Elder:時間と空間の中の子どもたち 金子書房 1997)
子どもの発達過程に戦争・恐慌・革命などの社会・経済・政治的変動が与える影響を長期的に追跡し、変動が起こった年齢やおかれた状況で発達の变化が異なることを示した。
- 中年からの老化予防総合的長期追跡研究(東京都老人総合研究所)
1976年から東京都小金井市の在宅70歳老人を医学・心理学・社会学的に15年間縦断的研究を行い、1990年からは中年期を対象に10年計画の学際的大型プロジェクト。
- Nun Study(David Snowdon:100歳の美しい脳 DHC 2004)
1986年から現在進行中の研究で、米国の678人の修道女を対象に加齢とアルツハイマー病の発病と発症、若年期の過ごし方が老年期にどう影響するかを多角的に研究。

↑ TOP

お知らせ

学術交流委員会より

今回の学術交流委員会では、「発展していく専門看護師の役割」をテーマに、本学修了生でご活躍中のCNS、濱口恵子さん(癌研病院)、馬庭恭子さん(YMCA 訪問看護ステーション・ピース)のお二人をパネリストとしてお迎えしてパネルディスカッションを開催します。事前申し込み不要、参加費無料です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(委員長 太田喜久子)

ニュースレター委員会より

ニュースレターは、例年どおり、年2回の発行予定です。会員の皆様のご投稿を心よりお待ちしております。学会ホームページ上 (<http://slnr.umin.jp/news/index.html>)でも、ニュースレターはご覧になれます。

(委員長 田代順子)

学会誌編集委員会より

聖路加看護学会誌9巻1号の原稿の受け付けは、1月31日をもって終了いたしました。現在編集委員会では、6月の発刊に向けて査読作業を進めております。たくさんのご投稿ありがとうございました。なお、原稿は随時受け付けておりますので、投稿希望の方がいらっしゃいましたら、是非お問い合わせください。

TEL:03-6226-6380 E-mail:yaeko-kataoka@slcn.ac.jp (片岡)

(学会誌編集委員会)

会計より

2005年度の活動が2004年10月1日より開始しました。本年度は選挙が行われます。納入期限(4月30日)までにお振込みをよろしくお願い致します。前年度までの納入がお済でない方は併せてお願い致します。

(担当理事:中山洋子、桃井雅子)

振込み先:郵便振替口座 00100-8-670371

加入者名 聖路加看護学会

年会費 :5,000円

庶務より

あけましておめでとうございます。

今年は評議員選挙の年です。平成17年4月30日までに会費を納入した会員が選挙人となりますので、会費納入をお願いします。また、所属や住所変更のお届けも庶務までお忘れなく。

(庶務:亀井智子・佐藤エキ子・松谷美和子)

[↑ TOP](#)

編集後記

学術大会のご案内と学術交流会のご報告をお届けしました。次回の学術大会は、記念すべき第10回目の大会となります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

[↑ TOP](#)[▲ ページトップへ](#)[学会について](#) | [入会案内](#) | [お問合せ](#) | [よくある質問](#) | [学術大会](#) | [ニュースレター](#) | [学会誌](#)[St. Luke's Society for Nursing Research](#) | [サイトマップ](#)